

早稲田大学 商学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	正誤判定・記述・100字の論述という出題形式は例年通り。昨年に比べて難化し、例年並みのレベルに戻った。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	中国思想の展開と 外来宗教	問題文初めの「世界史の枢軸時代」という表現は倫理でよく使う表現。諸子百家・ギリシアの哲学者・シャカなどがおおよそ同時代に活動したことに注目する。問Eの唐律の制定過程は正面からだとなしむいが消去法で対処可能。問jの清真寺も用語集に出ていない語句だが、本文の文脈から簡単にイスラーム教と判定できる。	標準
〔Ⅱ〕	ドイツ通史	800年のカール戴冠から2次大戦までを扱う。問A～Cは易しいが、問Dは正しい文の内容が細かすぎる(例：ロタール3世など)。こうなると誤りは確認できても、残りが正しいか否かは推測の域を出ることはできない。問L-1のエストニア(1917.11独立)とリトアニア(1918.2独立)は大戦中に独立したが、ラトヴィア(1818.11.18)は大戦直後の独立である。	標準
〔Ⅲ〕	産業革命	12問中9問が正誤判定だが、誤りの部分が見つかりやすい。ただ、正しい文の中には普通は学習しないような内容(例 問E-4)も見られる。あまり考えすぎ、疑いすぎると間違ってしまうかもしれない。ここは疑わしい項目をみつけたら、あとはあまり迷わないことだ。	標準
〔Ⅳ〕	戦後の国際経済と アメリカ	空欄補充と100字の論述からなる。空欄補充の大半は基本的内容だが、9の「先進5カ国蔵相・中央銀行総裁会議」は細かい。ただ、マスコミでは一般的な語句。新聞をよく読んでいる受験生には楽勝だった。	標準

〔総合コメント〕

出題パターンは例年通りだが昨年に比べ難しくなった。ただ、去年が易しすぎあって、これで例年並みというところであろう。正誤判定問題の中に手ごわい内容が目立つ。記述式と論述に関しては、一定レベル以上の受験生に大きな差は出ないと思われるので、正誤判定でどれだけとれるかが合否の分かれ目となろう。早大の他学部の正誤判定問題とパターンが似ているので、本学部にとどまらず他学部の過去問も目を通しておきたい。「先進5カ国蔵相・中央銀行総裁会議」のような、マスコミに頻出するわりには世界史では一般的でない語句が狙われることも予想される。新聞の国際欄・経済欄を読む習慣をつけたい。新聞を日常的に読んでいる受験生は、現代史で論述が出た場合には答案の出来が違ってくるはず。